

令和2(2020)年度 各部・各学年・各学科の具体策および年度末評価について

本年度の重点目標

1. 生徒に対して ①学習指導の充実 ②進路指導の充実 ③生徒指導の充実
2. 保護者に対して ①普段からの連携と信頼関係の構築
3. 地域に認められる学校づくり ①情報発信 ②地域貢献
4. 行事の精選（特別活動・各学科等で教育課程への位置づけ）
5. 職員 ①働き方改革の推進②チーム北陵・目標の共有・働きやすい職場
6. 新しい動きへの検討 ①新教育課程の検討②大学入試改革制度等の検討③ユネスコスクールとしての意識

部・学年・科	重点目標	具体策	評価基準	評価
教務部	4	学校行事の見直しや合理化により授業時間の確保を図る。	学校行事等の見直しで A…30時間授業時間数を確保できた B…18時間 " C…6時間 "	B
	6	生徒の実態を踏まえた質の高い教育を行うため、新教育課程作成や選択科目の改善を行う。	作成し改善を図ることが A…十分できた B…できた C…できなかった	B
	3	地域からの信頼を高めるために、本校教育の特色を発信する。また他の分掌と連携して、学校説明会・入試直前相談会を実施する。	発信することが A…十分できた B…できた C…できなかった	B
学習指導部	1	臨時休業による授業の遅滞の解消と、必要な生徒への学習支援のための取り組みを計画し、実践する。	A…2つ以上実施 B…1つ実施 C…計画は立てたが、実施せず、または計画できず	B
	2	学習成績や出欠状況などを常に把握し、成績不振者や欠課時数超過者およびその保護者に対して、初期対応を迅速に行うとともに、段階的な指導を実施する。	A…充分実施 B…概ね実施 C…対応が遅れた生徒あり、または全く実施できていない	B
	5	学習指導部に係るコロナ対応については、関係部署と連携しながら組織的に実施する。そのなかで、コロナ終息後の学校運営で働き方改革に資する有効な方法があれば次年度以降見直しをする。	A…充分実施 B…概ね実施 C…あまり実施できていない	B
特別活動部	3	1、生徒会活動、部活動、家庭クラブ活動等特別活動の活性化に努める。 (1)自主的かつ規律ある活動を促し、生徒自ら行動できるように指導する。 (2)生徒一人ひとりが意欲的に活動に参加し、達成感を得られる行事の運営に努める。	A…十分にできた B…できた C…できなかった	B
	3	2、部活動の活性化と成果を目指した指導の充実に努める。 (1)学年や部顧問と連携して、部活動の加入率および継続率向上を図る。 (2)活動場所および部室の管理指導を行い、本校の活動方針に則した活動を行う。 (3)学校ホームページを活用し、活動の発信に努める。	A…十分にできた B…できた C…できなかった	B
進路指導部	1	各学科・各学年との連携を図り、組織的系統的な進路指導体制の構築と学科の特性に合った資格取得の推進、その学びを活用して進路実現をできるような指導・支援をする。	A…十分にできた B…できた C…できなかった	B
	1	各学科・各学年・学習指導部との連携を図り、大学入試制度改革・就職求人状況・模擬試験やポートフォリオの活用法等の情報をホームページを活用して適宜提供する。	A…十分にできた B…できた C…できなかった	B
	1	卒業後の環境に速やかに適応するために、元気な挨拶と礼儀正しい言動がとれるよう、普段からきめ細かい指導を行う。	A…十分にできた B…できた C…できなかった	B
	3	地元を愛し、地域産業に貢献できる人材を育成できるよう、適切な情報提供と進路支援を行う。	A…十分にできた B…できた C…できなかった	B

生徒指導部	1	基本的生活習慣の確立を図り、集団の一員であることの自覚を促す。 (1) 挨拶を励行する。 (2) 高校生として適正な身だしなみを身につけさせる。 (3) 時間厳守、規則遵守の意識を醸成する。	(1) 挨拶を励行する。 ・自ら挨拶できる生徒の割合が A…約80%以上 B…約70%程度 C…約60%以下 (2) 高校生として適正な身だしなみを身につけさせる。 ・服装頭髪指導の再検者が A…約10%未満 B…約15%未満 C…約15%以上 (3) 時間厳守、規則遵守の意識を醸成する。 ・学校全体の遅刻者が A…1%未満 B…2%未満 C…2%以上	B (B, C, A)
	1	豊かな人間性の育成に努め、生きる力を身につけさせる。 (1) 相手の気持ちを考え、不快感を与える言動・行動がないよう意識させていく。 (2) 個を認め合い、思いやりのある行動が取れる力を身につけさせる。	(1) 相手の気持ちを考え、不快感を与える言動がないよう意識させていく。 ・生徒間の言動でのトラブルが A…無かった B…5件未満 C…5件以上 (2) 個を認め合い、思いやりのある行動が取れる力を身につけさせる。 ・学校生活の中で思いやりのある行動が A…多々見られた B…ある程度見られた C…全く見られなかった	B (B, B)
	1	地域社会や関係機関との連携を図り、交通安全教育の徹底に努める。 (1) 交通ルール遵守やマナー向上を意識させる。 (2) 危険を予測する力を身につけさせ、交通事故防止に努める。 (3) 自転車保険への加入を推奨する。 (4) スポーツタイプの自転車使用者はヘルメットの着用を努力義務とする。	(1) 交通ルール遵守やマナー向上を意識させる。 ・交通に関する苦情が A…無かった B…5件未満 C…5件以上 (2) 危険を予測する力を身につけさせ、交通事故防止に努める。 ・交通事故が A…無かった B…5件未満 C…5件以上 (3) 自転車保険への加入を推奨する。 ・保険加入率が A…100% B…80%以上 C…80%未満 (4) スポーツタイプの自転車使用者はヘルメットの着用を努力義務とする。 ・ヘルメット着用率が A…70%以上 B…60%程度 C…50%以下	C (B, C, C, C)
	1・2	生徒理解や生徒把握に努め、生徒個々に合った適切な指導援助を行う。 (1) 生徒へ積極的に声かけや面談を行い、生徒理解に努める。 (2) 学年・学科・保健室等で密に情報交換を行い、生徒の理解・指導に努める。 (3) 家庭的背景を十分に把握した上で、生徒に応じた指導援助を心がける。	(1) 生徒へ積極的に声かけや面談を行い、生徒理解に努める。 ・声かけや面談を A…ほぼ全職員行った B…多くの教員が行った C…限られた教員しか行わなかった (2) 学年・学科・保健室等で密に情報交換を行い、生徒の理解・指導に努める。 ・学年・学科・保健室が A…十分機能した B…機能した C…機能しなかった (3) 家庭的背景を十分に把握した上で、生徒に応じた指導援助を心がける。 ・家庭的背景を A…十分に把握、配慮できた B…把握、配慮できた C…あまり把握、配慮できなかった	B (B, A, B)
	1	危機管理意識の高揚に努める。 (1) 貴重品、自転車等の管理を徹底させる。 (2) 不審者と遭遇した場合の適切な対応等を身につけさせる。	(1) 貴重品、自転車等の管理を徹底させる。 ・紛失や破損などが A…無かった B…3件未満 C…3件以上 (2) 不審者と遭遇した場合の適切な対応等を身につけさせる。 ・不審者に遭遇したときに A…回避、通報等ができた B…回避、通報のどちらかができた C…何もできなかった	B (B, B)
	1	特別支援教育における支援の方法を検討する。 (1) 支援が必要な生徒一人ひとりの特性に応じた支援の手だてを検討する。 (2) 校内研修会を開き特別支援に関する職員の共通理解を得る。 (3) 支援が必要な生徒に対し、保護者と連絡を取りながら関係機関との連携を図り適切な援助を行う。	(1) 支援が必要な生徒一人ひとりの特性に応じた支援の手だてを検討する。 ・支援が必要な生徒に A…十分な手だてを講じられた B…手だてを講じられた C…手だてが不十分であった (2) 校内研修会を開き特別支援に関する職員の共通理解を得る。 ・校内研修会の開催が A…2回以上 B…1回 C…実施できなかった (3) 支援が必要な生徒に対し、保護者との連携、関係機関との連携を図り適切な援助を行う。 ・保護者、関係機関と	B (A, C, B)
渉外部	3	P T A・同窓会・諸団体からの要請に対応できる体制を確立し、連絡調整を余	A…全ての体制を確立し、余裕もって連絡調整できた。 B…体制の確立はできたが、余裕を持った連絡調整が難しかった。 C…体制の確立、連絡調整も滞った。	B
	3	各種行事への積極的な参加・協力を依頼する。	A…各団体8割以上の役員の方が出席した。 B…各団体6割程度になった。 C…各団体6割未満だった。	B

健康指導部	4	保健委員会活動を年間（毎月）を通して充実させる。	A…ほぼ毎月活動できた B…隔月程度活動できた C…十分な活動ができなかった	B
	1	心の健康問題について、教育相談係や担任と連携をとり、情報を共有し組織的な対応を行う。	A…情報を共有し組織的に対応できた B…情報の共有または組織的対応のどちらが不十分であった C…情報の共有及び組織的対応とも不十分であった	B
	1・5	職員及び生徒の防災意識の向上を図る。	A…防災訓練等を通し、教職員・生徒の防災意識の向上が見られた B…防災訓練等を行ったが、教職員・生徒の防災意識は現状維持であった C…防災訓練等を行ったが、教職員・生徒の防災意識の低下が見られた	B
	3	校内の老朽箇所及び危険箇所の発見と対応を図る。	A…老朽化・危険箇所を発見積極的に発見し対応することができた B…老朽化・危険箇所を発見し対応することができた C…老朽化・危険箇所を発見できなかった	B
	6	自販機周辺のゴミ（ペットボトル等）の管理の徹底を図る。	A…十分な管理をおこない清潔な状態を保ち整理できていた B…管理をおこない整理できていた C…管理が不十分であり不衛生な状態の時があった	A
1 学年	1	基本的生活習慣の確立のため遅刻につて学年全体で指導を行う	遅刻者数が学年平均（一ヶ月） A…1名程度 B…3名程度 C…5名以上	C
	6	進路意識の醸成を目指し、ポートフォリオに取り組む	進路意識が高まった生徒の割合 （実力テストアンケート） A…80%以上 B…60%以上 C…60%未満	B
	1	基礎学力の向上を目指し、家庭学習の習慣をつけさせる	家庭学習の時間が増加した生徒の割合 （実力テストアンケート） A…80%以上 B…60%以上 C…60%未満	B
2 学年	1、2、3	○進路指導を行ううえで、学年集会や学年通信、面談、外部との連携を行い、就職・進学に取り組む意識の向上を図る。	生徒の進路意欲の向上の割合（生徒アンケート） A…80%以上 B…60%以上 C…60%未満	A
	1	○基礎学力の向上を図るために、家庭学習に取り組むよう、小テストや宿題などを実施することにより、生徒を支援する。	家庭学習の時間が増加した生徒の割合 （実力テストアンケート） A…80%以上 B…60%以上 C…60%未満	C
	1	○生徒に頭髮、服装、期限を守ることや礼儀マナー、交通安全、健康管理の意識を身につけさせる。	基本的生活習慣、交通安全、健康管理の意識が全て身についた生徒の割合 A…80%以上 B…60%以上 C…60%未満	A
3 学年	1	出席率 98 %以上を目指す	A…99%程度 B…98%程度 C…98%未満	B
	1	赤点取得科目延べ数 0 科目を目指す	A…0科目 B…5科目 C…5科目以上	B
	1	9月求人の内定率7割を目指す	A…8割以上 B…7割程度 C…7割未満	A

生物生産科	1	充実した農場実習が行えるように、各部門において、農作物や家畜などの教材の維持に努める。	A…例年通りもしくはそれ以上を維持できた B…適切な量と種類を維持できた C…教材の維持が不十分であった	B
	1	安全な農場実習が行えるように、各部門において、環境整備および整理整頓を進める。	A…全ての部門において、環境整備や整理整頓を実施できた B…半分以上の部門において、環境整備や整理整頓を実施できた C…環境整備や整理整頓を実施できなかった	A
	2. 3	HPを通して、授業や実習の様子、地域貢献活動などを積極的に発信する。	A…10回以上実施 B…5回程度実施 C…実施せず	A
農業機械科	1	専門教科における指導内容の充実と各種資格取得による、知識・技術の向上を図る。	各学年3つ以上の資格を取得できた生徒の割合 A…80%以上 B…70%以上 C…70%未満	A
	1	安全な農場実習を実施するために、5 Sの周知徹底を行い、安全意識の向上を図る。	A…機械等による事故や怪我がなく、生徒の安全意識が向上した。 B…機械等による事故や怪我がなく、安全な農場実習が実施できた。 C…事故や怪我を防ぐことができなかった。	B
	1	各自の適性にあった進路選択ができるよう、大学や企業見学、地域ボランティア活動への参加を実施し、進路実現に向けた意識向上を図る。	アンケート実施にて進路意識の向上の割合 A…80%以上 B…70%以上 C…70%未満	B
食品科学科	1	各学年において例年行っている上級学校の見学・体験、企業見学などの実施は、今年度は感染症対策の観点から厳しいため、専門科目の学習を通じて関連づけてた指導を行う。それにより進路意識の向上につなげる。	アンケートを実施し、次のように評価する。 A…90%以上が進路意識が高まり、明確な目標を定められた。 B…70%以上に進路意識の向上がみられた。 C…進路意識の向上がみられた生徒が70%未満	B
	2	将来の進路に関連づけて資格取得の指導を強化する。	A…例年に比べて多くの生徒が資格取得した。 B…例年通りの結果だった。 C…例年に比べ、取得率が低下した。	B
	3	地域と連携した活動を継続的に行う他、研究活動の教科を目指す。	A…例年以上に学科の生徒が地域交流に参加する他、食品化学や微生物学を基盤とした研究活動にも積極的に取り組めた。 B…例年通り地域交流活動に取り組めた。 C…例年に比べ地域と連携した活動を行えなかった。	C
総合ビジネス科	1	1年生 反復学習による技術知識の定着を図り、資格取得に積極的に挑戦させ、1つ以上の検定には必ず合格することで自己肯定感を高める。	A…全員が1つ以上の検定に合格できた。 B…95%以上の生徒が検定に合格できた。 C…90%以上の生徒が検定に合格できた。	A
	1	2年生 学校行事や地域事業に積極的に参加することで、自己の進路を考察し、高い勤労観・職業観を育成する。また専門的な知識や・コミュニケーション能力を身につけさせる。	A…例年に比べ学科生徒の積極的取組ができた。 B…例年並みの生徒の取り組み状況である。 C…例年の生徒に比べ消極的な取り組みである。	A
	1	3年生 課題研究や総合実践の科目を通して、自ら課題を発見し、創造力を発揮し、実社会のビジネスの諸活動において困難な問題を積極的に解決できる能力を育成する。	A…生徒の積極的取り組みで成果がみられた。 B…取り組みにより生徒の能力向上が見られた。 C…例年より消極的な取り組みとなった。	B
教養（介護）福祉科	1	介護福祉士国家試験の高い合格率を目指す。	A…90%以上 B…全国平均以上 C…全国平均未満	B
	2	福祉に関係する関係緒機関と連携を図り、専門性の高い授業を展開する。	A…十分に探求する授業となった。 B…例年並みの取り組み状況である。 C…例年より消極的な取り組みとなった。	A
	3	ユネスコスクールの登録に向け、福祉の視点を持って、校内外の活動に取り組む。	A…生徒が主体的に取り組むことができた。 B…例年並みの取り組み状況である。 C…例年より消極的な取り組みとなった。	B